

Y06b 天文分野における中学・高校・大学の有機的な連携への提案

有本 淳一、留岡 昇 (京都市立塔南高校)、沖園 良介、成田 直、大串 真奈美、横尾 武夫 (大阪教育大)

ここ数年、大学と高校の間で高大連携が広く行われるようになってきた。しかし、内容的には出張講義や、大学の講義を高校の単位として認定するような形だけのものがほとんどである。真の意味で高校と大学、あるいは中学まで含めた連携を行うためには関係する教育機関及び、そのスタッフ、学生・生徒が有機的なつながりを持ったコラボレーションを行う必要があるだろう。

我々は2002年11月20日に、京都市立塔南高校において連携授業を行った。対象は主に中学生で、塔南高校の生徒も参加した。内容は、最初に大阪教育大の学生が天文学の起こりからHR図の成立までの歴史的な流れを実験などを通して講義した。そして、色 - 等級図の作成実習を行った。この実習ではPAONETのfitsファイルWGが開発した画像処理ソフトを用いた。その後、インターネットを通して、大阪教育大学天王寺キャンパスと結び、そこで撮像した画像をライブ中継した。最後に大学からインターネットを通して実習のまとめの講義を行った。

今回の連携授業では事前と事後にアンケート調査を行っており、それらの結果について、学生の講義や実習、インターネットの利用などの各観点で議論をする。また、昨今、学校が教育委員会や自治体のネットワークに接続され始めているが、それらを利用する上での障害や問題も明らかにすることができた。これらに関する詳細を報告するとともに、我々の実践を通して、天文分野での中学・高校・大学の有機的な連携のあり方について提案を行うものである。